公立黒川病院

［ロボット手術とAI］

副病院長
泌尿器科医師　田口　勝行

泌尿器科領域は古くから、科学との付き合いが深く、膀胱鏡、レーザー手術、ＥＳＷＬ（体外衝撃波結石破砕術）などが代表的です。そして今、前立腺がんに対してロボット支援手術が行われるようになってます。

ロボット手術というと、ロボット（アシモ君）が、術者に代わって患者のわきに立ち、メスをもって手術するイメージがありますが全く異なります。体表から人間が鉗子を入れて、それを術者が遠隔操作する手術です。自動車工場をイメージするとわかりやすいです。自動車が前立腺で、いろいろ伸びてくるアームがロボットです。操作するのは人間で、ロボット（アーム）は手段にすぎません。

２０１６／３、AI（人工知能）が囲碁トップ棋士に勝ち、世間に衝撃をあたえました。なんと、先を読むことができるようになったのです。その後多くの分野にAIが爆発的に広がっています。手術のアームをAIが操作する日は遠くないと思います。しかも失敗することなく、学習しながら進歩を重ねていく。この読者たちが手術を受ける頃には、AIが手術を指揮、指導しているかもしれませんね。

［2種類の子宮がん検診について］

婦人科医師　相良　守峰

みなさんは、子宮がん検診には検査部位により、2種類あるのをご存じでしょうか。

①一般的な子宮がん検診は、子宮の出口にあたる、子宮頚部細胞診です。子宮頚がんの早期発見のために行います。頚がんは30歳後半に多い疾患です。定期的に検診を受けていれば、がんになる前の段階で診断することができます。

②もう一つは、子宮内部の子宮体部細胞診です。子宮体がんは、40－60歳代に多い疾患です。子宮体がんの初期症状は不正出血（月経以外の出血はすべて）で、検査には多少の痛みが伴うため、症状がなければ、検査しないことが多いです。ところが、この子宮体がんは最近増加しており、子宮に発生するがんの55％をしめています。出産しない女性が増えたことや、食生活の欧米化、肥満の増加が影響しています。

おかしいと思ったら産婦人科を受診してみましょう。